

立ち読み版

# 事例Ⅳで70点を超える

直前総点検と使える裏ワザ大公開

遠藤 直仁  
e-academy株式会社 代表取締役 / 税理士 / 中小企業診断士  
寺子屋 遠藤塾 <https://e-academy.co.jp/>



近年、2次試験合格者の多くが、事例Ⅰ～Ⅲで合計170点台をキープし、事例Ⅳで70点超えに成功している。これが、2次試験必勝の逃げ切りパターンだ。

本特集では、前号から引き続き、事例Ⅳにフォーカス。経営分析から、キャッシュ・フロー計算書、投資の経済性計算、変動費と固定費、記述問題まで――。財務・会計の達人、寺子屋遠藤塾の遠藤直仁講師が、事例Ⅳで70点を超えるために必要なポイントを総点検するとともに、今からでも身につく裏ワザを大公開する。企業診断恒例の誌上添削付き！

- 第1章 経営分析  
指標選択の手順が身についているか
- 第2章 キャッシュ・フロー計算書  
白紙から作成できるか
- 第3章 投資の経済性計算  
将来キャッシュ・フローを計算できるか
- 第4章 固定費と変動費  
出題者の意図が見抜けるか
- 第5章 記述問題  
リスクを想定できるか

特集

## 事例Ⅳで70点を超える

直前総点検と使える裏ワザ大公開

第1章

# 経営分析

指標選択の手順が身についているか



遠藤 直仁 e-academy株式会社 代表取締役 / 税理士 / 中小企業診断士  
寺子屋 遠藤塾 <https://e-academy.co.jp/>

経営分析の問題では、何と言っても分析指標を外さないこと。最近は、指標選択の際に落とす穴が多く、受験生としては取れそうで取れない悩ましいテーマでもあります。

また、経営分析の指標選択問題は、過去19年間で100%出題されています。ということは、今年度も出題されるはず。事例Ⅰ～Ⅲには見られない、「お約束問題」とも言えるでしょう。

指標選択問題で全問正答できれば、合格への大きなアドバンテージが手に入ります。そのために最も重要なのは、指標選択の手順をしっかりと身につけていることです。

④意味ある比較値（Good, Bad）に着目し、その状況を表す分析指標を検討

指標選択において絶対にやってはいけないことは、主な経営分析指標を片っ端から計算し、数値の悪いもの（もしくは良好なもの）を単純に選択するような乱暴なやり方です。ここ数年の試験では、このやり方を採るとトラップに引っかかるよう、作問されていると筆者は睨んでいます。

では、指標選択の基本的な手順が身についているか、確認しましょう。実際に過去の本試験問題（平成23年度）を使って、エクササイズです。

### 【例題】

D社は日本海側の地方都市にある創業25年の水産加工メーカーである。資本金1,300万円、総資産約13億円、売上高約24億5千万円、従業員数は35名（アルバイト・パート除く）で、地元漁港から揚がる魚介類を中心に、水産物の加工品を主に地元スーパーおよび外食産業に卸す他、年に数回、飛び込みの需要にも応じている。

近年の販売実績は、食の安全に対する消費者意識、生活習慣病を予防する食生活への関心を反映して、地元で揚がる魚介類に対するニーズが高まったこともあり、おおむね好調である。さらに、数年前より全国に展開する大手スーパーとの取引

### 1 指標選択の基本的な手順

まずは、経営分析の指標選択の基本的な手順をおさらいしましょう。

- ①ビジネスモデル（業種、取扱製品、利益の生まれる源泉など）を確認
- ②売上高をベンチマーク（同業他社など）と比較（売上高の比較値1.266倍などを求めておく）
- ③B/S、P/Lなどの各科目や区分小計（売上総利益など）について、ベンチマーク（同業他社など）との比較値（率と額の必ず両方）を算出し、売上高の比較値と比べ良否を判断